

北槎聞略附錄

全

一〇枚 二軸 二冊	二架	一七八 函	一八三〇 一號	和書門 類
-----------------	----	----------	------------	----------

八五函 一 一 架	一〇枚 二軸 二冊	一八三〇 一號	和書 類
--------------------	-----------------	------------	---------

出(一)

内閣文庫	
番號	和 18301
冊數	24 ( 12 )
函號	185 579

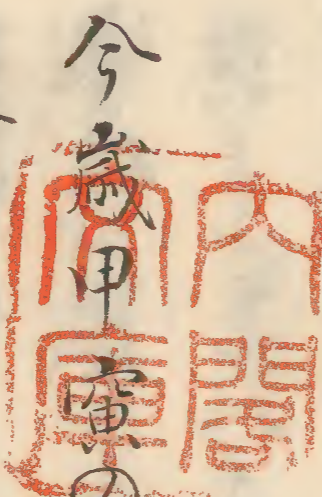


北京  
大清宣統元年  
正月  
...





北槎聞略附錄



今歲甲寅の四月和蘭國入貢と國瑞

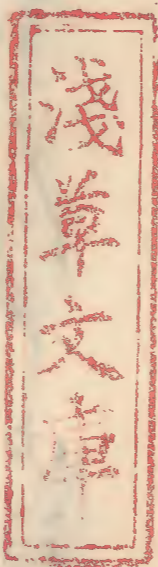
復

内音と奉——との酋長甲必丹

ケイスベルドヘンミイガリ者ふ就と魯西

亞國事と質——訪へんミイ谷頭云

小人們從來いふごとく其邦



至<sup>なり</sup>とも現今<sup>たいま</sup>隨行<sup>まわ</sup>の人負<sup>ひと</sup>等<sup>ら</sup>より彼  
地<sup>ち</sup>を涉<sup>せつ</sup>歴<sup>れき</sup>せし者<sup>もの</sup>何<sup>なに</sup>もなり故<sup>ゆゑ</sup>ふ  
下<sup>した</sup>問<sup>と</sup>ふ查<sup>さ</sup>對<sup>たい</sup>しし其<sup>その</sup>詳<sup>しょう</sup>細<sup>じゆ</sup>ふ事<sup>こと</sup>を  
得<sup>え</sup>ししつりも當<sup>あた</sup>り傳<sup>でん</sup>列<sup>れつ</sup>の及<sup>およ</sup>ぶを  
抄<sup>しょう</sup>譯<sup>やく</sup>ししる小<sup>せう</sup>冊<sup>さつ</sup>子<sup>し</sup>何<sup>なに</sup>ししもの  
審<sup>しん</sup>備<sup>び</sup>以<sup>もつ</sup>て度<sup>た</sup>ふししりも頗<sup>せき</sup>る概<sup>がい</sup>略<sup>りやく</sup>を  
見<sup>み</sup>るふ是<sup>こゝ</sup>れ今<sup>いま</sup>茲<sup>こゝ</sup>ふ奉<sup>ほう</sup>贈<sup>く</sup>して  
以<sup>もつ</sup>て若<sup>わ</sup>語<sup>ご</sup>ふ當<sup>あた</sup>りししりも中<sup>ちゆう</sup>箱<sup>じゆう</sup>の



中<sup>ちゆう</sup>以<sup>もつ</sup>て探<sup>たん</sup>ししり一<sup>いつ</sup>短<sup>たん</sup>冊<sup>さつ</sup>頁<sup>げつ</sup>を以<sup>もつ</sup>て 國<sup>こく</sup>瑞<sup>ずい</sup>ふ  
授<sup>まか</sup>し 國<sup>こく</sup>瑞<sup>ずい</sup> 此<sup>こゝ</sup>を以<sup>もつ</sup>て譯<sup>やく</sup>して讀<sup>よみ</sup>む  
成<sup>な</sup>し 釋<sup>しやく</sup>ししる國<sup>こく</sup>字<sup>じ</sup>を以<sup>もつ</sup>て  
此<sup>こゝ</sup>編<sup>へん</sup>ふ併<sup>ひ</sup>せしり考<sup>かう</sup>ふゆふ書<sup>しよ</sup>名<sup>な</sup>を以<sup>もつ</sup>て  
ベシケ<sup>ベシケ</sup>ーヒンギ<sup>ヒンギ</sup>ハシ<sup>ハシ</sup>五<sup>ご</sup>スラ<sup>スラ</sup>ント<sup>ント</sup> 翻<sup>はん</sup>釋<sup>しやく</sup>を以<sup>もつ</sup>て  
魯<sup>ろ</sup>西<sup>せい</sup>亞<sup>あ</sup>略<sup>りやく</sup>記<sup>き</sup>を以<sup>もつ</sup>て編<sup>へん</sup>末<sup>まつ</sup>を以<sup>もつ</sup>て

茲<sup>こゝ</sup>歲<sup>さい</sup>九<sup>く</sup>月<sup>げつ</sup>

臣<sup>しん</sup>國<sup>こく</sup>瑞<sup>ずい</sup>謹<sup>こん</sup>識<sup>し</sup>

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

魯西亞略記

和蘭甲必丹ケイスベルドヘンミイ筆記

日本侍醫官法眼桂川甫周 國瑞 譯釋

魯西亞國一名謨斯哥未亞モスマとよみの國也

地勢方幅必觀カクし、モロベルトベルトガリ者也

撰述ケンしと、フ郎ラウ察ス國カ把バ理リ斯スの地也

鑲版キョウ皆ケ、キ興キョウ地圖ヂを以もつ其金キネを得トり

ろと  
魯西亞の本國ハ歐羅巴洲中部分係  
地ハ亞細亞洲ハより北の多  
本國ハ歐羅巴の東北東ハありと地ハ  
北緯大なり南緯四十六度少なり北緯  
七十度より南緯四十一度より西七十七度  
より南緯南北のりあり

皇朝の里數七百二十餘里とあり

魯西亞國王を歴古ハカサルと稱と國言王

千七百二十年享保五年ペートルといひ國王

すれはる賢徳の人なりしを尊稱して

ゴロト尊大の義なりといひ人初とケースルの号は

稱号ちやうなりケースルの皇

本國ハ韃靼都尔格雪際スベと數度

大戦ありしを以てしる軍法

熟練じゆくけん一今ふむりいと其軍率いんそつ等最  
驍勇せうゆうなり近隣きんりんの諸國しよこく多くこれふ  
伏従ふくじゆん路ぢ

當今まがた女主にすめ先帝せんてい崩くづれと後のち大統たいとふを嗣つぎ  
魯西亜ロシヤ皇帝ていの尊号そんごうを稱なづけられたりなり  
當今まがた女主にすめの本國ほんこく大功たいこうを立たて或ある國事こくじを勤ととめり  
又軍法いんぽうを練達れんたつせられたりなり此こゝに立たたれたりなり  
何なんれと元來げんらい貴族きしやくなりとなり此こゝに位ゐを継つぎぎ

魯西亜ロシヤ小ヲルテオトルテ本編服色ほんへんぷくしきの三等さんとうあり一名な子こニ  
テテケニスケニスととふふ此こゝに法貴ほふきを表あらわせたりなり  
者もの小治せうぢりととの尊敬そんけいを表あらわせたりなり  
女王じゆうおうこれを掛かけたりなり其その三等さんとうはたの  
如ごとし

シントアンデレマスシントアンデレマスのヲルテオトルテハ千六百九十八年せんろくひやくくじゅうはちねんより  
元祿げんろく十年じゅうねん初はつめにこれを制定せいぢやうせたり

シントカトリナノヲルデハ千七百十四年 正徳四年

初これと製と

シントアレキサンドルのヲルデハ千七百二十五年

享保十年初これと製と

此ヲルデと治る者其人より 謝恩銀

納り申り年々小數き申

ナリ

魯西亞國地氣極りく凝寒なり就中

北陸氷海小際より地りる甚

土産雜穀 獸毛皮 蜜 蠟 牛 羊 野羊

俗マギと稱 井脂魚 蝦 熊 黑白二種 エラント

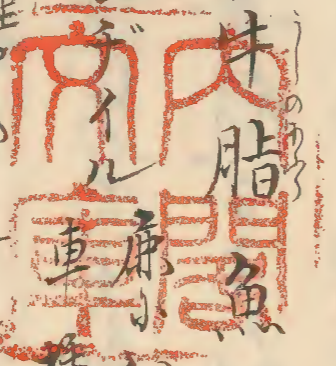
麻の属 車 核を挽く即堪達

狐 黑白二種 ヘルメーエ 銀貂 俗マルテルス

麴の類 貂 等 以上 の新皮を以て四品

ろ革を製し 此 を護斯哥末亞

革と 其他 塩 硫黄 銅 鉄 材木





檣材の類を産す

本國の人物ハ中等の大さものと性極りと  
勇悍りり下等の賤人の強暴残忍傲詐  
小して信がー常小気味酷烈がふ  
燒耐を好しとー人を悪し半は  
即ち毒殺とされども中人以上恭敬  
和順小して終節あり半 他の諸  
といね

魯西亞の教法ハ羅馬と一般がー但奉崇  
せり処入佛像塑貌を月ひとー画  
像をりり

魯西亞國分史の大略

○サントペートルスブルグ

○ヴェーヘル

○リガ

○フロートノホゴロド

○アルハンゲル

○モスコウ

○スモトレンスコ

○キラウ

○ビイコゴロド

○ワロ子ス

○ニジノホゴロド

凡十一部

此内都城二所を略載と此二亦其國中  
中より最繁盛の地なり

ペートルスブルグ 其地廣富ふと城郭  
の制構極と嚴整小人民屋室の  
宏濶なり ペートル帝始と此城を都と  
さしりて今カタリナと名づく

此城を以て皇城とす

モスコウ 此邦第一の都會なり 周圍

二十四里 本邦の里數 城郭屋室の制構

ペートルスブルグ小及ソと此地小大鐘河其

重し三十萬ポンド ポンドを九十六及び二十萬ポンドを此方の二萬八千八百

貫目 世界無比の洪鐘 外國人

傳稱 其後本編

魯西亞小服属とる處の諸國亞細亞洲小係

シベリイ 又シベリイと稱すカムサツカ

蝦夷小邊の地も小むり西ハコシマ

の界小接と

按 ナホミチ 小シマ カウライ 高廉 カウライ

明初 カン 漢時 キョウ の舊 キョウ 小復 キョウ 朝鮮 キョウ

と號 サイヤウ を改 サイヤウ りたれ サイヤウ る西洋 サイヤウ

今 タ 小シマ タ と稱 タ とり タ 但 タ 魯西亞 タ

國 コ 坡 コ ハ コ 黒龍江 コ の コ 小數 コ 百里 コ 小在 コ され

ハ ハ 朝鮮 ハ と ハ 壤 ハ と ハ 接 ハ す ハ 小

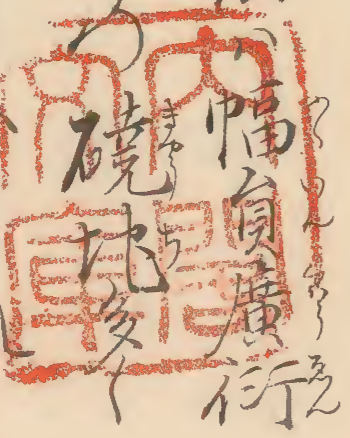
ハ ハ 西 ハ と ハ 稱 ハ と

うゝと必傳問の語なり也一然と  
意を以て改むべきありきれ直小  
原本の義も後と疑存し以て  
他の弁正と候

地も亦地氣候温暖一と五穀生  
ずと多くは空曠の地なり其の土人  
極りと野陋なり只打魚捕獵と事  
と一皮革を製せりとと業とをなす

租税の利も川のなる津りも  
魯西亞國壤地廣大一も方今世界  
第一の大國なり其れも其人民の數  
却

日本も及ばざる也一其の幅  
千里の幅も曠漠不毛の地  
數百里も間絶し人烟も亦  
なり



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. A prominent red square seal is visible in the lower right quadrant of the page. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.



